

日時	場所	会場	公演名	出演者	主催・共催	後援	入場者数
2017年 平成29年 5月16日 (火)	開演		NHKホール 「兄のランドセル」朗読劇 朝日新聞記載 2017年5月16日	原作 山本ゆき	いのちのフォーラム 実行委員会	NPO法人 ガバチョ・プロジェクト	人

ガバチョ・プロジェクト スタッフ

「命守る」生涯を朗読劇に

がんで死去から10年 参院議員・山本孝史さん



2016年1月の朗読劇の一場面。背後に山本孝史さんの生前の写真が大写しにされた=大阪府茨木市

がん対策への国の取り組みを強く後押しした参院議員、山本孝史さん（享年58）が亡くなって10年。その生涯を伝える朗読劇「兄のランドセル」が6月11日、東京都渋谷区のNHKホールで上演されます。脚本は妻ゆきさん（65）。「命を守るのが政治家の仕事」が口癖だった夫の没後に出版した同名の本が原作です。

ストーリーは山本さんの学生時代から始まる。中学2年で参加したキャンパスの大学生リレーに憧れ、立命館大入学後はボランティア活動に没頭。そこで交通遺児の作文を読み、封印してきた記憶がよみがえる。

5歳の時、三つ上の兄が自転車でトラックにひかれて死んだ。背負われたランドセルが道路に転がった……。

大学卒業後、山本さんは交通遺児育英会に就職。弱者を置き去りにする制度の壁を感じ、法律を学ぼうと88年の衆院選に立候補した。多くのボランティアに支えられて初当選。兄の形見のランドセルを携えて初登壇した。

議員エースと年間問題などに取り組む一方、交通遺児を支援する団体のサポート対象に自殺で親を失った子どもが増え続けてきた2001年から「自殺対策」に目を向けた。議員立法を準備して実現化奔走。そんな折、56歳だった65年暮れに胸腺がんが見つかった。



原作を書いた山本ゆきさん

妻・ゆきさん脚本 自殺・がん対策…「バトン引き継いで」

ゆきさんは米国留学中だった30代の山本さんと知人の紹介で出会い、結婚。「この人と一緒にいれば社会勉強になる」と思ったが、私は翻訳の仕事などに忙しく、彼の活動をおまわり支えてこなかった」と苦笑いしながら振り返る。

山本さんは06年5月の参院本会議で、自らががん患者であることを明かして、「がん対策を訴え、その熱意は党派を超えて支持され、「がん対策基本法」「自殺対策基本法」は全会一致でスピード成立した。07年7月の参院選では鼻に腫瘍チューブをつけて街頭演説し、当選。だが、12月に息を引き取った。棺には、ゆきさんの手で兄のランドセルが納められた。

ゆきさんは悲しみの中、夫が親しかつた政治家や官僚、NPO法人関係者らと交流を重ねた。国会議員としての発言や活動すべてを調べ、「彼の信念を伝えねば」と11年、「兄のランドセル」（朝日新聞出版）を出版。その後、ラジオで朗読したいとの提案を受け、「それは朗読劇に」とゆきさんが脚本を担当し、同年12月の大阪で初上演した。

以降、秋田や岩手でも上演されて今回で6回目。山本さん役は初回から演じる田中健さん、ゆきさん役は市毛良枝さん。出演者はプロ・アマの俳優陣のほか、過去のロ・マの俳優陣のほか、過去の

昨年12月に没を遂げて、心の整理がなかなかつかない中、友達から4月末のポール・マッカートニーのコンサートに誘われて。車間養生展やミシヤ展も見ようかと、さらに入で泊ることにした。

節約のため一設ベッドの相部屋形式のホテルをとったが、行く直前になって、引込み窓の間に介護生活で引きこもりがちな日々を送っていた自分がそんな宿に泊まれるかして不安になった。

でも、杞憂だった。朝食のとき近くのテラスにいた同室の若い女性と話しかけると、就活中とのこと。

ポール、ありがとう

レシビ検索はこちら(スマホのみ)▼